◇調査実施概要

・福井都市圏（嶺北地方）の約 6.1 万人を対象に調査を実施し、約 4.4 万人から調査票を回収（回収率約 72%）

・10 月 11 日に調査対象世帯へお願い葉書を送付し、10 月 15 日から 11 月下旬にかけ調査員の訪問配布・訪問回収により調査を実施

◇　総生成量（総トリップ数）【図１】

福井都市圏内の人口は前回調査の平成元年から今回にかけて、ほぼ横ばいの 64 万人（５歳以上人口）であるが、トリップ数（人の移動回数）の総数は約５%減少の約 167 万トリップとなった。

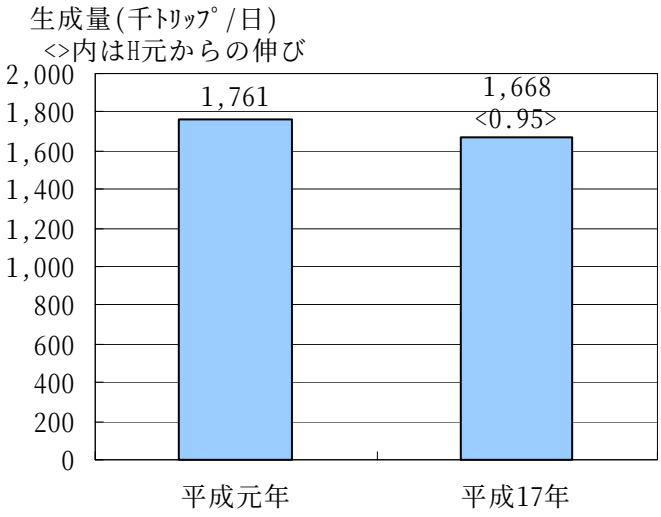


図１　総生成量の推移

◇　代表交通手段別の伸び【図２】

平成元年と比較して自動車利用が約 1.2 倍と大幅に増加する一方、鉄道利用が 0.7 倍・バス利用が約 0.5 倍と大きく減少している。また、徒歩二輪についても大幅に減少している。

◇　代表交通手段構成比【図３】

自動車利用割合が 76.6%と高く、鉄道・バス・徒歩の占める割合が低い。また、これまでパーソントリップ調査を実施した都市圏のうち、福井都市圏は最も自動車利用の割合が高い都市圏となった。

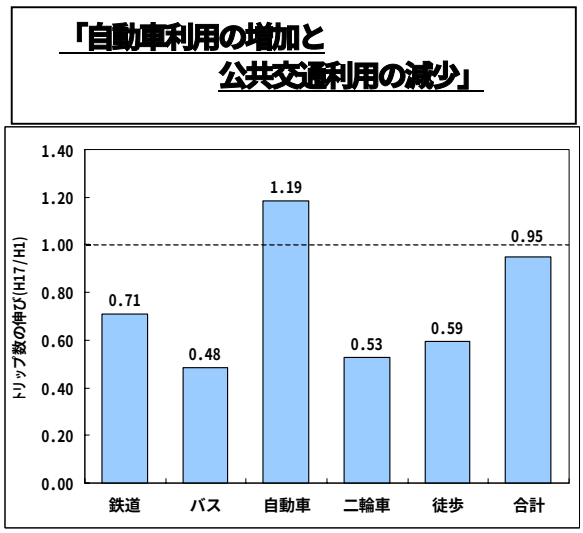
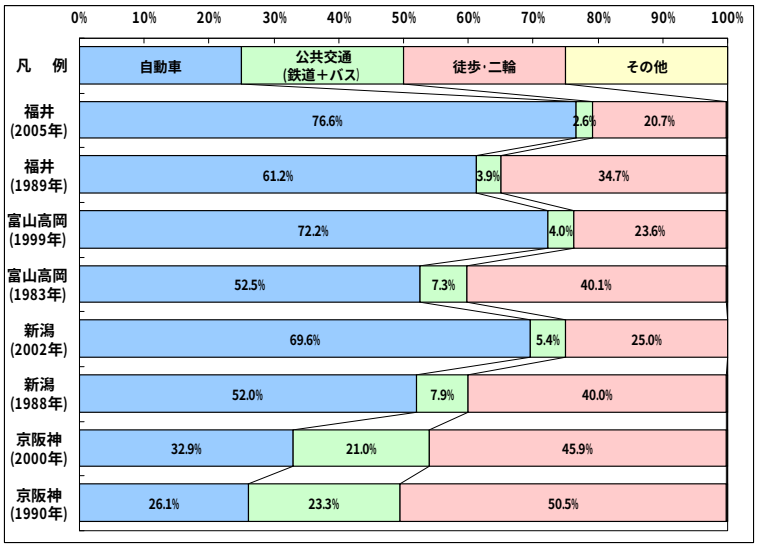


図２　代表交通手段別の総トリップ数の伸び（Ｈ１７／Ｈ元）

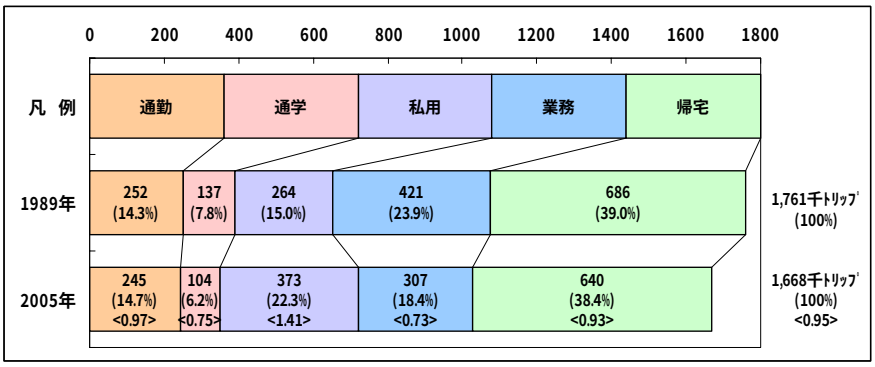


資料：都市計画ハンドブック 2003

図３　都市圏別の代表交通手段分担率

◇　目的別トリップの推移【図４】

平成元年（1989 年）と比較して通勤・通学トリップがやや減少、業務トリップが 0.7 倍減少している反面、買い物、送迎などの私用トリップが 1.4 倍と大幅に増加している。



（ ）内は構成比、＜　＞内は前回調査からの伸び

図４　目的別トリップ数の推移

◇ 用　語

○　トリップ　　人がある目的をもってある地点からある地点へ移動する単位をトリップといい、１回の移動でいくつかの交通手段を乗りかえても１トリップと数える。

○　代表交通手段　　いくつかの交通手段を乗りかえた場合、その中の主な交通手段を代表交通手段といい、代表交通手段の優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪、徒歩の順となる。下の例の場合の代表交通手段は鉄道になる。

○　目的の分類　　大きく分けて次の５つに区分する。

通　勤	一日のうち最初に勤務先へ行ったトリップ
通　学	一日のうち最初に通学先へ行ったトリップ
私　用	買い物、食事、レクリエーション等、使用のためのトリップ
業　務	配達、会議、農作業、帰社等、仕事のためのトリップ
帰　宅	自宅へのトリップ